

“命を守ること、次世代に引き継ぐ重要性、 防災に関する責任感・敬意・約束、

日本人のどこから生まれているのかを知ることができた！”

(研修員のアンケート回答より)

研修期間：平成 29 年 1 月 9 日～2 月 18 日
(6 週間)

研修場所：神戸市/熊本県/東京都

研修内容：日本の中央・地方政府が行う多様な災害への
対応・対策に関する理解を通じ、
参加研修員が、総合的な防災・減災の考え方
に基づき、自国・地域の防災・減災計画を改
善するための支援を目的とした講義/視察



研修最終日：閉講式にて

参加研修員：6ヶ国 12 名中央政府・地方政府で防災活動を推進する立場にある行政官



コスタリカ
(3 人)



エルサルバドル
(3 人)



グアテマラ
(3 人)



ホンジュラス
(1 人)



ニカラグア
(1 人)



パナマ
(1 人)

独立行政法人国際協力機構(JICA)の委託を受け、兵庫県や神戸市などの協力のもと、「中米防災対策研修」を実施しました。

神戸市は阪神・淡路大震災の教訓をもとに、自然災害による人的被害を最小限にするために、ハード・ソフト両面にわたる事業を中長期的な視点から着実に進めるとともに、震災の記憶の風化の防止や、経験や教訓の継承と発信に努めています。

また、住民ひとりひとりが「自分たちの命を自分たちで守る」という「自助・共助」の大切さに気付かされた経験から、「防災福祉コミュニティ」という自主防災組織が神戸市内全域で結成されています。防災福祉コミュニティは住民が主体となって、安全で安心して暮らせるまちづくりを目指し、消防訓練や避難訓練など様々な災害活動につながる訓練に取り組んでいます。

本研修では特に、このような地域住民の災害対応能力の向上に焦点をあて、行政による地域防災能力の支援策や地域における災害啓蒙活動や避難行動等の具体的方策に関する知識を身につける目的で研修を企画しました。

視察は神戸市、東京都、そして震災復興中の熊本市でも実施しました。被災地の仮設住宅を訪ね、また、被災した歴史的文化的文化財を通して観光資源にもスポットをあてるなど様々な視点から学びました。



～研修を振り返って～

●神戸市にて



継承が大切ね！

1.17 メモリアルウォークに参加し、阪神・淡路大震災に思いをさせました。



市役所の耐震・情報伝達システムは市民にとって重要！神戸市役所危機管理センターを視察し、避難所・罹災証明についても学びました。



兵庫県災害対策センターを視察。

防災には「機器」も必要ながらデータ収集を継続する「人が備えること」の大切さを学びました。



グラシアス！（ありがとう）

中央ふきあい防災福祉コミュニティの主催の防災訓練に参加し視野が広がりました。手作りの豚汁で心も温まりました。

他に神戸地方气象台や兵庫県災害医療センターを訪れ、一人でも多くの命を助けようとするスタッフの活動とシステムを視察しました。



「どこが？なぜ？」神戸を歩きハザードマップ作り！

全研修を通して視察・体験・講師との身近なディスカッションを大切にしました。

●神戸の学生たちと



つらい決断「つなみてんでんこ」を 聴いて…

神戸学院大学社会防災学科の大学生たちから災害グッズの作り方を学びました。学生の語った震災の話に研修員たちは驚き、考えさせられました。

防災を学び日本各地で支援活動を行う学生たちと交流し、防災教育の必要性と手法を学びました。



先生と生徒から体験談を。

兵庫県立舞子高等学校環境防災科にて。学生の前向きな発表に防災への意欲が高まりました。

●防災教育イベントに参加（JICA 関西主催）

「イザ！美カエルキャラバン」のイベントに参加。出展者側と参加者側の双方を体験しました。



是非、帰国後に実践したい！



古新聞を折って食器を作ろう！

子どもたちと紙食器を作って、出展側目線で防災教育手法を学びました。



カエルで救助練習？興味を引くね！

イベント本番までに NPO プラス・アーツから様々な防災教育を学びました。

●熊本市へ

熊本では行政側と被災者側の双方の状況や立場について、理解を深められました。



悲しくて言葉が出ないよ…

熊本市役所・益城町役場で復興計画を聴き、甚大な被害を受けた益城町を視察しました。



歴史的文化財の防災？

熊本城が観光資源として大きな役割を果たしていた話から研修員は自国の歴史的な文化財と重ね合わせました。



文化財の防災技術、すごい！

熊本城の視察前に姫路城の防災技術の研究・開発について講師から深く学びました。

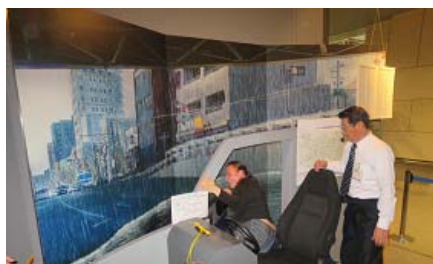
●熊本の仮設住宅へ

熊本県最大の仮設住宅テクノ団地では大学生による仮設住宅向けの支援活動を聴き、仮設住民とも情報交換をしました。



学生のボランティア活動と住民の力強さに感動。熊本で「防災」とは何をすべきなのか？具体的に理解できた。

●東京にて



こんな水位で車のドアが開かないの？

東京消防庁本所都民防災教育センター（本所防災館）で災害時の体験を通して防災の意識づけのアイデアを取得。



自国で防災主流化をもっと考えなくては！ JICA 東京にて受講。

2月16日、研修員達はこれらの講義・視察で学んだことを、それぞれの国でどのように活かしていくかについて発表しました。“研修で得た知識を毎年の実施計画に反映させて、継続的に取り組みたい！”と、研修員たちが熱く語りました。

この研修を通じて身に付けた知識・経験を、各々の国における地域防災推進活動に活かし、一人でも多くの方が災害から守られることを期待しています。

●ありがとうございました。

委託元機関：独立行政法人国際協力機構(JICA)関西国際センター

講義/視察先：アジア防災センター/一般財団法人日本地域開発センター/NPO 法人プラス・アーツ/関西大学/熊本学園大学おひさまカフェ/熊本県上益城郡益城テクノ仮設団地/熊本県益城町役場総務課/熊本市熊本城総合事務所/熊本市経済観光局/熊本市総務局復興総務課/くらし研究所ままどころ/公益財団法人兵庫県国際交流協会/神戸学院大学/神戸市危機管理室/神戸市消防局/神戸地方気象台/清水建設株式会社技術研究所/JICA 本部地球環境部/多言語センター-FACIL/中央ふきあい防災福祉コミュニティ/東京消防庁本所防災館/常葉大学/新潟大学/人と防災未来センター/姫路市姫路城管理事務所/兵庫県企画県民部災害対策局/兵庫県教育委員会/兵庫県広域防災センター/兵庫県災害医療センター/兵庫県立大学防災研究センター/兵庫県立舞子高等学校/ひょうごラテンコミュニティ/防災インターナショナル/益城だいすきプロジェクト
(五十音順、敬称略)

